556. 大阪大学病院における放射線情報システム (RIS) 第3報 患者案内システムとその評価について

Radiology Information System in Osaka University Hospital (the 3rd report)
Information system to the patients and its evaluation

大阪大学医学部附属病院 放射線部 ○木元治幸 笹垣三千宏 祐延良治
(Haruyuki Kimoto) (Michihiro Sasagaki) (Yoshiharu Sukenobu)
段床嘉晴 森 嘉信
(Yoshiharu Dantoko) (Yoshinobu Mori)

【目的】 病院移転に伴う放射線情報システム構築の過程で、いかに患者へのサービスを充実させるのかを検討し、一般撮影待ち患者に各種情報を提供する患者案内システムを開発した。そのシステムと有用性の評価結果について報告する。

【方法】 放射線部受付から撮影室入室までの間の患者への情報提供を行うために、患者案内システムとして待ち合い廊下にビデオプロジェクターを2台、各撮影室前に受付確認板を設置した。受付では受付番号と検査室を記入した放射線検査受付票を発行し、患者に手渡し案内を行う。この受付番号はRISを介して患者案内システムに表示され、待ち合い状況の情報として患者に提供した。入院患者については外来患者の受付とは別に専用の受付端末を用意し、外来患者とは区別した。これらはRISと患者案内システムのオンライン接続で全て自動運転により行った。(Fig.1) システムの有用性の評価は患者及び出診係の看護婦へのアンケート調査により行った。

【結果】 Fig.2に受付確認板を示す。ビデオプロジェクターには待ち合い状況の他にテロップ表示で各種案内表示が可能であるので、放射線部から患者への情報の伝達が可能となった。入院患者専用の受付端末の設置は受付部門の省力化と混雑の解消に役立った。アンケート調査の結果をFig.3及びTable 1に示す。このシステムが有用であるという意見が91%を占め有用性が確認された。

【考察】 オーダリングシステムの導入により何も持たずに放射線部に案内される患者にとって、撮影待ちの間は本当に自分が受付られているかより不安になるであろう事が予想された。本システムにより撮影待ち患者の不安、イライラ感を和らげられたと考えられ、患者へのサービスが向上した。

Table 1 アンケート結果 (コメントとして記載された内容)

記載内容	人数	種別
非常に良いシステムである。(親切、安心感がある)	12	患者
待ち時間の表示があると良い。	7	患者、看護婦
見る前に呼び入れられたので分からなかった。	5	患者
待ち時間の短縮化を進めてほしい。	4	患者、看護婦
説明不足である。見方が分からない。	2	患者
技師と直接連絡出来ないのが融通がきかない。	2	看護婦
故障しなければ良いシステムである。	2	看護婦
故障が多く不便である。	2	看護婦
ビデオモニターは必要ない。TV放送を流せばどうか?	1	看護婦

Fig.1 RISと患者案内システム

Fig.2 受付確認板

Fig.3 アンケート結果